

平成 26 年度特定鳥獣保護管理検討委員会・ヤクシカWG 合同会議議事概要(案)

1. 生息数の確認について

ヤクシカの分布の傾向については、間違いないと思われるが、調査点数の少ない糞粒法では、年ごとの誤差が多く出るので、特に捕獲の進んでいるところでの捕獲による効果が分かるようするためにも、誤差の少ない方法を検討すること。

2. 被害の把握について

シカによる農業被害は大幅に減少しているが、森林の被害や畜産のダニ被害、果樹園等でのヒル被害など、現在把握されていない被害も多いので、反映するようにして欲しい。また、被害が大きく生産をやめ耕作放棄地となったものや作付面積、電柵などシカ対策施設などについても把握して欲しい。

3. ヤクシカの捕獲について

捕獲は農地周辺ではシカを目撃が減ってきているとのことなので、捕獲の効果が出ているものと考えられるが、それ以外の場所においては、依然として多いと思われる。

ヤクシカの行動や生態を把握して、地域毎に群れを対象に集中した捕獲を行うことが必要。

捕獲に当たっては有害鳥獣捕獲の報償金が大きなインセンティブになっており、将来的にわたって捕獲圧をかけ続けるためには、何らかのインセンティブとなる措置が必要。

4. モニタリング

メスジカの行動圏を把握することは、群れの行動圏を知る上で重要である。(オスは大きく移動することが分かっているので、調査する必要がない。)

ヤクシカの生息数を推計するためには、増加率を知る必要がある。できる限り多くの令別妊娠率のデータを蓄積するための体制作りが必要である。

各機関が連携したモニタリング体制や情報共有を進めることが必要。

5. 生態系管理目標

西部地域など被害の酷い地域でも植生保護柵の設置により林床の回復が見られることから、各地域での林床植生の回復可能性を見ながら、管理目標の設定を行うこと。

6. 第 2 種特定鳥獣管理計画について

今回提示した項目案を素案として作成し、委員に送付する。